

- 未来の暮らし
- リ・デザイン
- 共創
- 継続学習

スマートモビリティ・プラットフォームが 導く新たなまちの姿 ー モビリティ指向型開発への挑戦 ー

広島大学 藤原章正

本発表資料等には、内閣府総合科学技術・イノベーション会議の下で推進する「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期/スマートモビリティプラットフォームの構築」(研究推進法人：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)(NEDO管理番号：JPNP23023)の成果が含まれています。

未来の暮らし

バスは雨の日が
混雑するし
時間が不正確で
不便ですね



子どもが自力で移動
できる交通手段が
ないんです…

通学や習い事の
送迎で1日が終わる…



免許返納後の
生活が不安だなあ
ウチの地域じゃ
車がないと
買い物も難しいよ



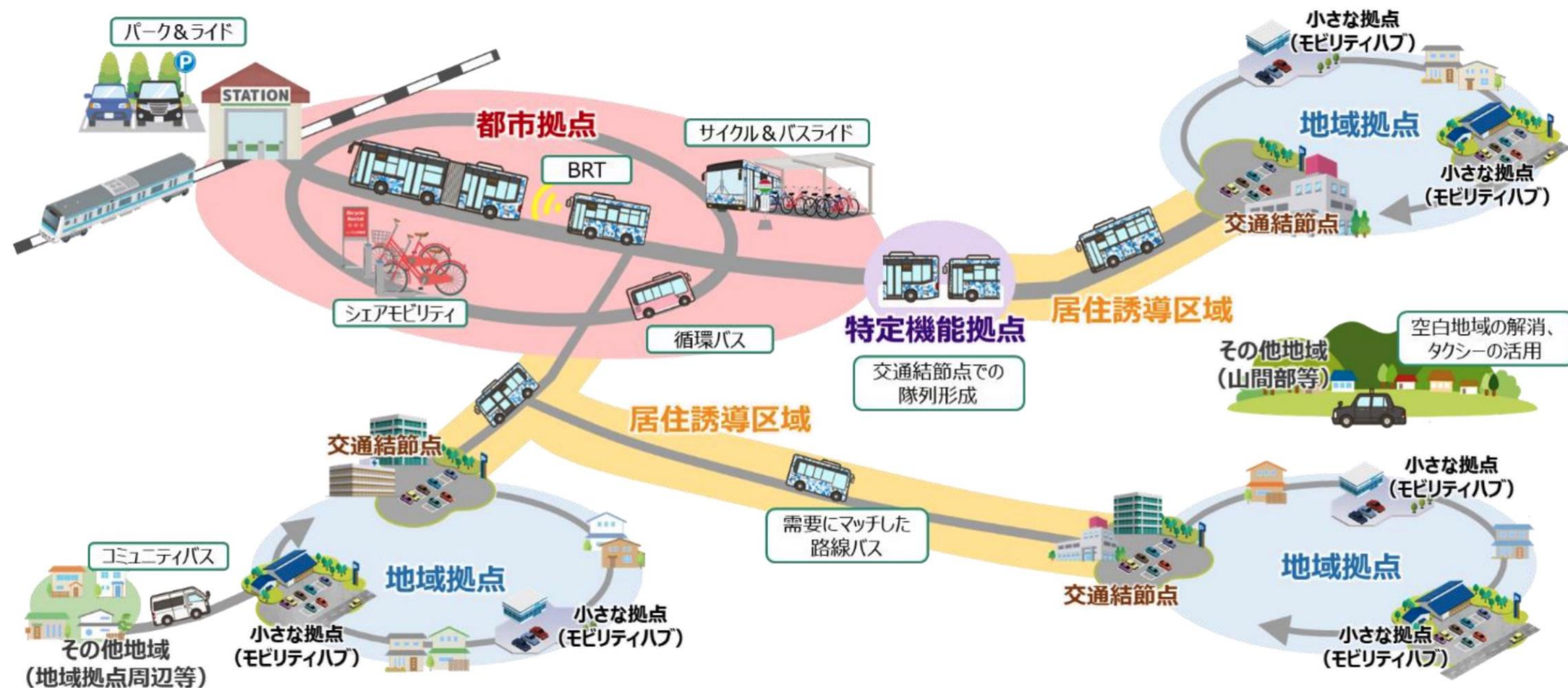
卒業後は県外で
就職したいです





リ・デザイン

東広島市都市交通計画



出典：東広島市都市交通計画 ～人と環境にやさしく、誰もが自立して安全・快適・自由に移動でき、サービスを楽しむ未来都市～（2024年6月策定）

クリチバ市（ブラジル）BRTを都市軸とした都市開発1974年～



資料：URBS Curitiba

ブラジル・クリチバ市

特徴

人口185万人, 432km², 多民族

都市計画概念

公共交通指向型開発（TOD）

- 効率的なバス高速輸送システム（BRT）
- 土地利用計画との統合
- 歩行者や自転車利用者への配慮
- 持続可能な環境への配慮
- 多様な都市政策との連携

沿革

- 1970年代: BRT導入とTODの基盤構築
- 1980～90年代: 公共交通沿線の高密度開発と住民参加型計画
- 2000年代～現在: 持続可能性やスマートシティ技術との統合

雑感

- ジェイミ・レルネル市長のリーダーシップ
- 「おしゃれ、わかりやすい、確か」, まちの形を変える基盤

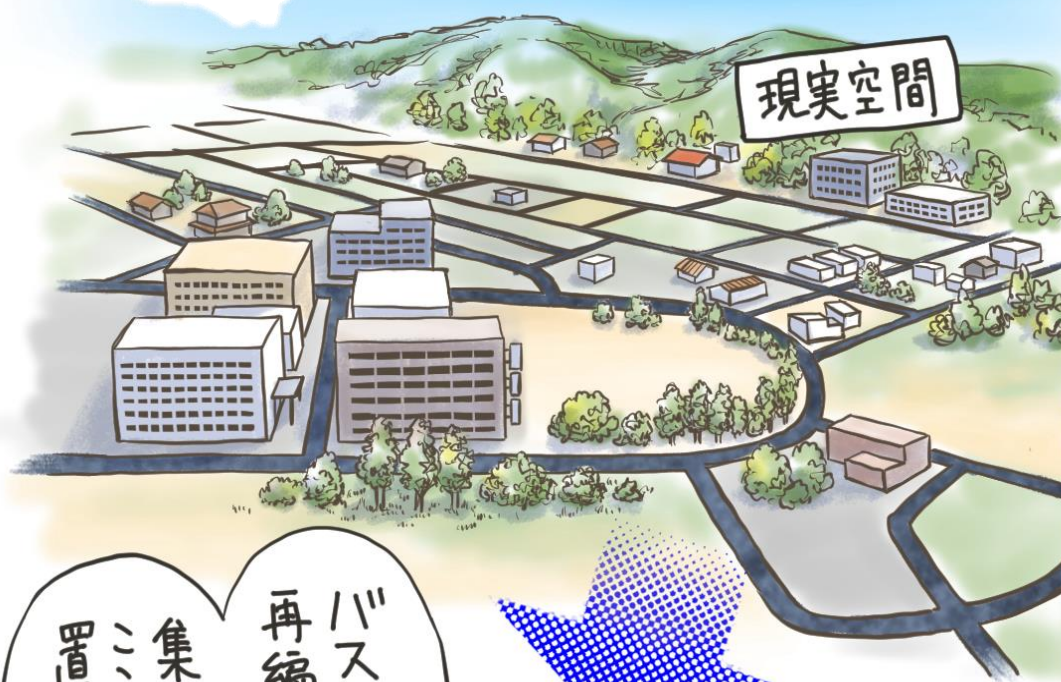
そのひとつが

現実空間の環境を

サイバー
仮想空間にそのまま再現する

「デジタルツイン」技術による

シミュレーション
模擬実験です

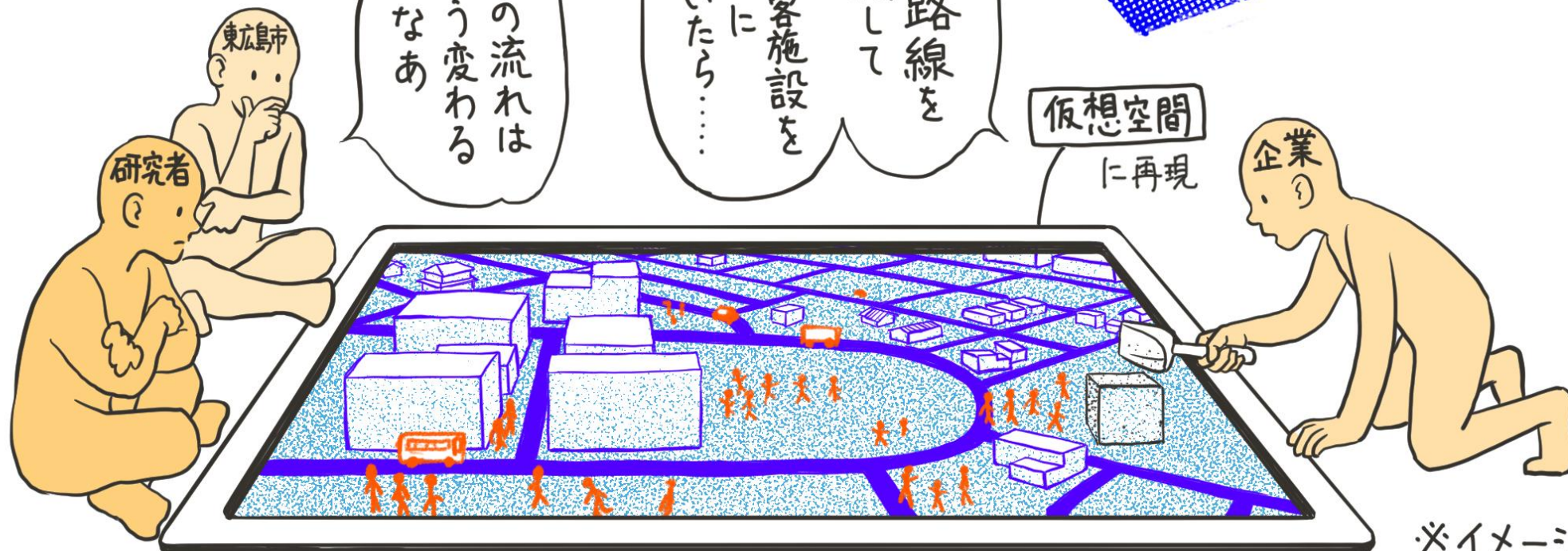


仮想空間
に再現

バス路線を
再編して
集客施設を
ここに
置いたら……

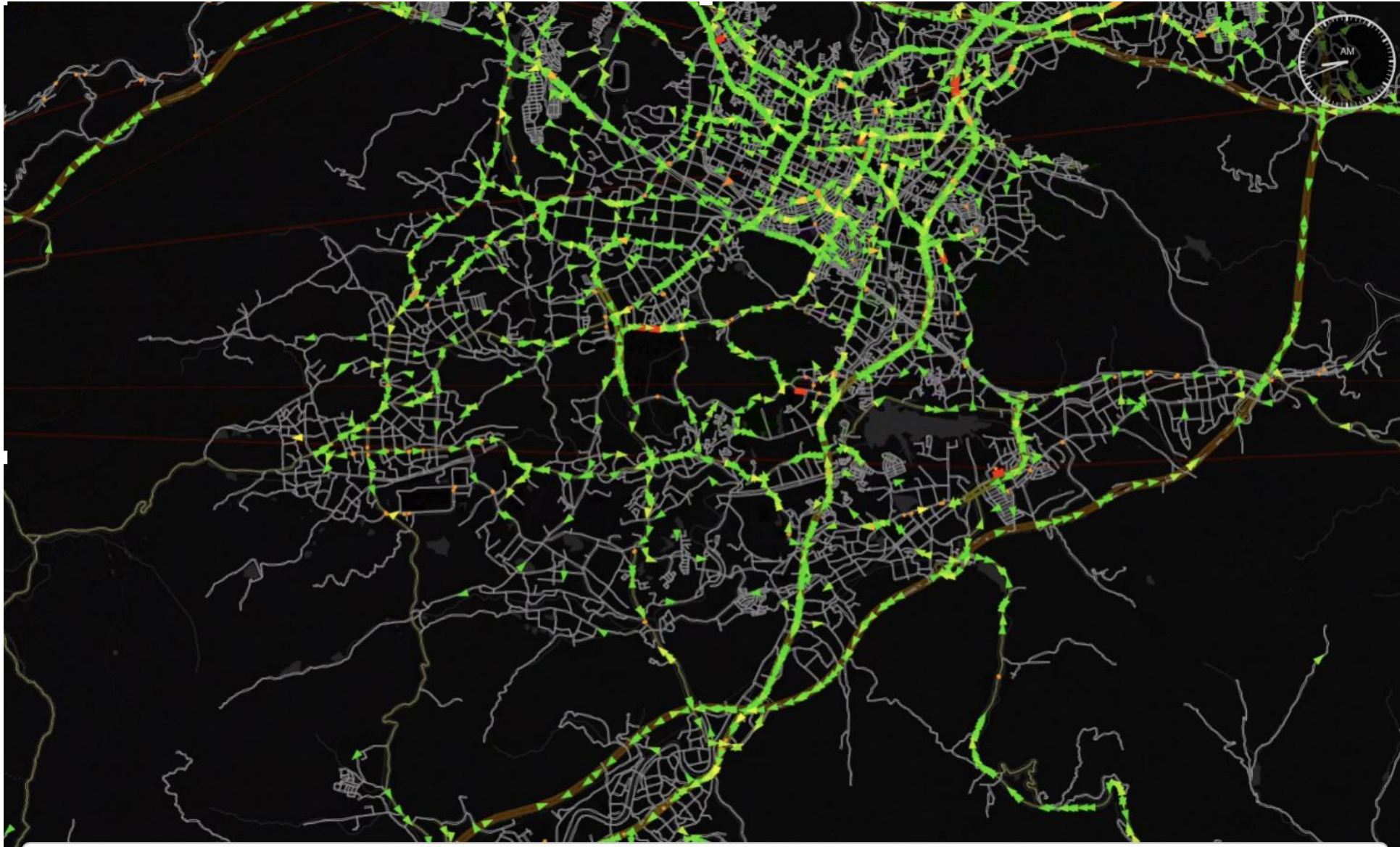
人の流れは
どう変わる
かなあ

仮想空間なら
サンドボックス
砂場のように
遠慮なく
試行錯誤でき、
低コストで
未来予想図を
描けます



※イメージです

まちぐるみシミュレータ



凡例

- ▶ 一般車両
- BRT

共創

MOD=Mobility-Oriented Development
(新モビリティ指向型都市開発)



つまり
新モビリティの導入には、
従来の施設配置や
土地利用、交通ルール等の
プラットフォーム社会基盤の再構築が
リ・デザイン
欠かせません
▼
2024年からの
MODプロジェクトでは
広島大学を含む複数の
学術機関や企業が
一緒に取り組んでいます

新モビリティ指向型開発

(**M**obility-**O**riented **D**evelopment,
TOD4.0, Beyond TOD)

自動運転BRT、ライドシェアサービスなど新モビリティサービスや連携・統合された交通サービス（MaaS）を活用し、20世紀の公共交通指向型開発（TOD）を発展させる、新モビリティ時代の革新的な都市開発アプローチ

データ＋コミュニティ＋施設等のインフラシステムの導入、アプリケーション運用のための官民パートナーシップなど、より住民中心の超システム（System of systems）プラットフォームにより、変動する需要に適應した都市マネジメントを目指す

自動運転隊列走行BRT



ラストマイル自動運転シャトル



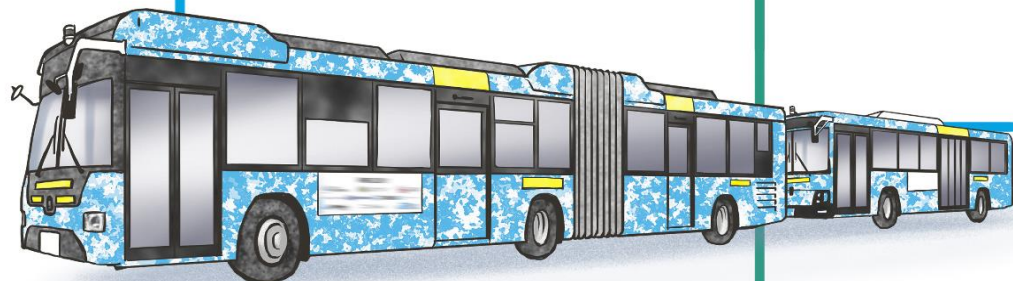
連携協定



東広島市

西日本
旅客鉄道(株)

広島大学



MOD コンソーシアム



呉工業高等専門学校



東京大学生産技術研究所



(株)バイタルリード



パシフィックコンサルタンツ(株)



中電技術コンサルタント(株)



復建調査設計(株)

みずほリサーチ &
テクノロジーズ(株)

MODはまちとひとと乗り物の
共創で生まれる新たな物語。

出身地や世代を越えて、
住民の誰もが笑顔で参加できる
物語を皆でつくりましょう！

MOD コンソーシアム
研究開発統括責任者

広島大学 教授
藤原章正



繼續學習

15年い現時点で世間の関心度は高く、
前述の自動運転・隊列走行BRTの
実証実験では、一般向け試乗会の
予約はすぐに満席になりました

鉄道ファンや
家族づれも多し



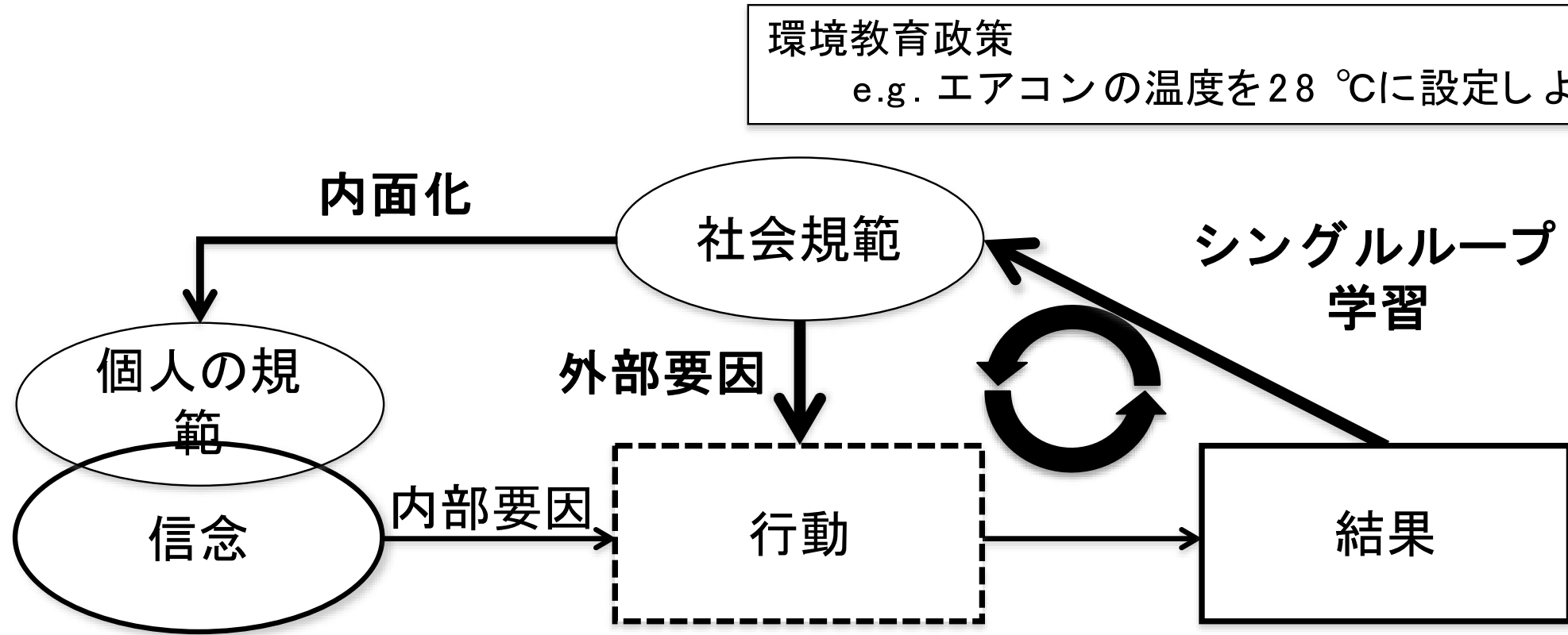
一方で、新技術に対して
無関心または懐疑的な
層への情報発信は
大きな課題ですね

自動運転？
興味ないなあ
試乗会？
そんなの
あった？



規範は日常からつくられる

Schwarz (1977)



一流の市民になるために、、、

- ・ 知識やスキルを身につけようと心がける
- ・ 価値観や気づきについて、他の人と話し合ってみる
- ・ イベントやSNSの場を使って、自分の意見を情報発信してみる

市民、企業、団体、大学、市会議員と一緒に



ご清聴ありがとうございました

afujiw@hiroshima-u.ac.jp